

支部だより

【東京支部】

毎年恒例となっている東京支部総会。今年も盛会のうちに終了しました。その様子を寄稿頂きましたので紹介いたします。また、近年若い世代の方々の参加も増えていきますので、その声も掲載させていただきます。

【東京支部総会】

上野公園の並木も紅く色づき始めた十一月十一日(日)に第二十九回原町高等学校同窓会東京支部総会が、昨年に続いて上野精養軒で正午より開催されました。昨年同様避難者の参加もあり、百六十余名の参加でした。

開会挨拶、東京支部長の挨拶に続いて平成二十三年度会計報告は原案どおり承認されました。

渡辺一成同窓会長(十四回卒)、本多光弥校長の挨拶に続き、馬場有浪江町長(十九回卒)の挨拶では、昨年三月から現在までの浪江町及び町民の苦難の状況について詳しくそしてリアルなお話があり、原発に関する考え方を新たに感じました。次に山岸光男先生による生徒達の進路、部活等についての報告があり、第一部は終了致しました。

第二部の懇親会も乾杯の後に懇談に入り、暫くぶりに会う友人、先輩、後輩達と尽きぬ話で盛り上がり、時間の過ぎるのを忘れてしまう程でした。



【支部総会に参加して】

南相馬市出身の新人歌手遠藤理恵さんの美声に酔い、杯を重ねて美酒に酔い、会場は更に盛り上がり、その後は先輩たちの民謡大会さながら次から次と相馬の民謡が歌われ

今回私が東京支部総会のご招待をいただいたのは、今回が二回目でした。そもそも第六十一回生である私がこのような光栄な場にお呼びいただくようになったのは、震災後の募金活動の際に東京支部支部長の古室さんと連絡を

取ったのがきっかけでした。在学中は生徒会執行部に所属していたため、東京にいる原町高校OBGに出来ることは何かと大沼里(在学中は生徒会長)と同窓生を募って活動を始めました。集めた募金は平成二十三年六月に原町高校へ届け、各教室へのエアコン設置などに有効に使っていただけたと山岸先生、川村先生から聞いております。

総会のなかであった「これだけ深く厚い繋がりのある同窓会をもつ高校は滅多にない」というお話は大変印象に残っております。出席者のみなさんは年齢や卒業回の違いを感じさせないほど私を含む大学生の卒業生にも親切に声をかけてくださり、その度に原高出身者は皆よい人ばかりだなと感じておりました。

私はこの春から社会人になりますが「原高健児ゆくとくろ、勝利は常に我にあり」の精神を忘れることなく社会に貢献出来る人間でありたいと改めて思いました。可能であればまた次回も参加し、上の方々はもちろん、下の代にも原高の伝統を受け継いでいきたいです。

佐藤 勝(八回卒)

【原町支部】

【古い先輩から】

御卒業おめでとうございませう。皆様は千年に一度の大地震・大津波・それに原発の災害、これは日本初めての事であり、その震災後二回目の卒業生となりました。今迄の当校の卒業生の中で、これだけの経験を卒業されるという事は今後の人生の中で得たい物の様な気が致します。この経験、体験を色々な分野に進まれていく君達への神様からの贈り物と、とらえて頂き、この困難、苦難を乗り越

り越える力を得たあなた達だと思えます。

今の福島県は除染作業が急ピッチで行われています。この除染という事についても簡単な事ではありません。多くの人達の手作りで行われております。この気の速くなる様な作業を、もっと簡単に楽な方法で除染出来るものを創れないか？或いは放射能を、カメラで濃淡を見つけてる事が出来るようになっていきます。これを眼鏡をかければ簡単に見られると言う様な眼鏡を發明してくれる人はいないだろうか？

あなた方に期待をして、将来どんな困難をも切り開いてくれるそんな社会人になって行って下さい。13回卒、古稀を迎えた老人の希望であります。

原町支部長 荒 忠敬(十三回卒)

【小高支部】

【小高支部活動と雑感】

本来であればまず先に新年の挨拶と新人者を祝いはげまし、同窓会として支部活動の報告をするのが常でありましたが、二十三年三月十一日の東日本大震災に加えて、東電の事故により丸二年を迎えようとしているが、復旧復興が遅々として進まず、この二年間は全くの休止です。①野球部後援会で行った後援会募金活動の後②小高支部長として長年務められた相商一回卒の三澤義光氏を葬る会の弔辞、③更に、原高第三回卒の橋富司氏を葬る会の弔辞を贈ったのが、二十四年度の行事報告であります。二十五年度こそ活動を再開したい。

会員御家族の生活がはなればなれで、県内外で原発事故による追い打ちが残念でならない。今回の政権交代により

東北、福島県浜通りの復興が力説されているので、インフラの整備も含め速度が早められるものと考えられる。しかし震災前まで小高区にあっては、多くの企業、事業所があったが、震災後はほとんど他市町村に移転してしまつた。これらの企業の復活誘致を考えないと、小高区に戻る区民は、皆無になるのではと心を痛めている一人である。市当局はこれ等の問題をどう捉えているのか、新卒者や、職を失っている方をどう受け止めてくれる企業、又南相馬出身で活躍されている事業家を呼び寄せる方策を!!

市民こそぞって健康に留意し、南相馬市復活の為頑張りましょう!!

小高支部長 西内眞介(相商六回卒)

【浪江支部】

【同窓会の皆様に感謝】

おとしの震災、大地震・大津波・福島第一原発事故発災からもう二カ年経過。この間、全国の善意ある方々、ボランティアの方々避難先自治体等のご支援を頂きました。感謝の念で一杯です。

さて、昨年11月11日上野精養軒において東京支部年次総会に招待を賜り出席してまいりました。会場には浪江支部の諸先輩も出席しており、本当に懐かし笑顔で元気なお姿を拝見し安堵。これまで支部活動を一生懸命なされておる方々でしたので、一層嬉しく思いました。町が再生し再び浪江支部が活動できることの思いを強くした次第です。

現在、2万1千名の町民が福島県内に1万4千名、県外に7千名避難しており、国連人権委員会に提出された「国内強制移動に関する指導原則」に国内避難民と私どもは

浪江支部長 馬場 有(十九回卒)



位置づけられております。憲法に明記されておる「生存権」「財産権」「幸福追求権」の権利をはく奪されました。これらの権利回復に国・東電には賠償保障を強く要求しております。

「家庭・家族の崩壊」「社会の絆の崩壊」「学校崩壊」「生業の崩壊」等々バラバラにされておき、これらの現状回復には相当の時間が必要になります。少しも前に進めよう頑張っていないと進めようを強くしておるところです。

同窓生の皆様にはこの原発避難者のために一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

最後に、原町高校(一時はサテライト校として避難の学校運営をしいたげられました)の再建とご隆盛、同窓生のご活躍・ご健勝を祈念し挨拶いたします。

【同窓会総会】

〜2年ぶりの総会と募金活動〜

昨年8月25日(土)原町区のラフォーヌにおいて同窓会総会が開催されました。震災以降、活動休止状態でありましたが、22・23年度事業・決算報告、24年度事業計画・予算案などについて審議、承認されたことで、同窓会が再始動しました。22年度役員の方々が留任され、引き続き同窓会活動を牽引していただくことにもなりました。

同窓会組織強化のための議案も承認され、それを受けて11月27日(火)には柏曜会館において役員会が開催されました。同会では同窓会組織強化のための活動協力の募金活動を行うことになりました。

現在のところ、同窓会運営費用は、ほぼ在籍生徒からの会費(事実上終身会費の扱い)で賄われています。震災後、原町高校は生徒数が激減し、来年度募集定員は、震災前の6クラス240名に対し4クラス160名という状況です。母校生徒の活動をこれまで同様に支援

同窓生の支援

震災以降、母校には数多くの支援を頂いているところですが、昨夏はフィラデルフィアのテンプル大学経済学部 岡齊 大 教授による学習指導をいただきました。夫人の浩子さん(旧姓小野さん、四十八回卒)が同窓生で、帰国・帰省を機に、母校の力になりたいという強い要望で実現し、5日間中身の濃い講義が行われました。浩子さんからは、在校生に対し「困難な状況下でも、進学をあきらめず頑張ってください」というメッセージもいただきました。受講した生徒は「大変分かりやすくプラスになった」と、学力アップに役立てたようです。ぜひ、好結果に繋げてほしいところです。



岡齊(大)夫婦

講義の様子